

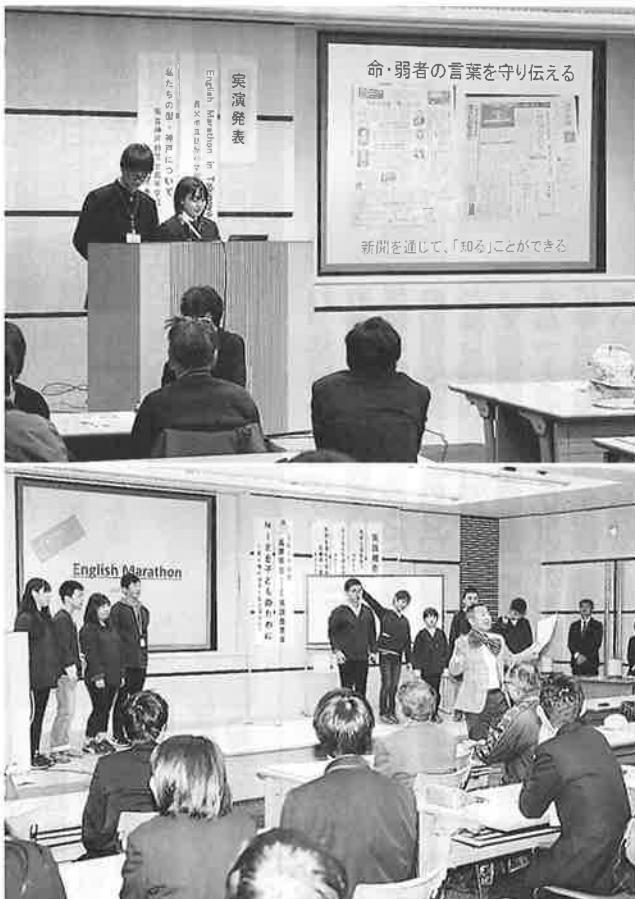
兵庫NIEニュース

第62号

発行 兵庫県NIE推進協議会

〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸新聞社内
TEL (078)362-7054 FAX (078)362-7424

E-mail hyogo-nie@kobe-np.co.jp HP http://www8.kobe-np.co.jp/nie/hyogo/



●経営者を取材して新聞を作ったことを発表する、神戸鈴蘭台高2年の岸崎泰成さん(左)と勝占美穂さん●建屋小児童によるイングリッシュ・マラソン発表

投書欄に投稿／経営者インタビュー／壁新聞作り…

県内代表5校が活動報告

定校2年目の小中高1校ずつ
が担当した。

神戸市立向洋小の田中健一
みを紹介。「新聞は子どもとの取扱選択や自己表現ができる

■発達段階に応じて
実践報告は、NIE実践指
定校2年目の小中高1校ずつ
が担当した。

教諭は、朝の学習時間で子ども
も新聞を教材に、4年生は「読
む」▽5年生は「記事を要約
する」▽6年生は「自分の考
えを述べる」といった取り組
みを紹介。「新聞は子どもと
社会を結ぶ扉になる」と話す
教諭は、気になった記事を選
んで感想を書き、班でまわし
読みしていると報告。「情報

2019年度兵庫県NIE実践発表会

2019年度NIE実践発表会(兵庫県NIE推進協議会主催)が2月1日、神戸市中央区のみうり神戸ホールで開かれ、県内外から教育関係者ら約80人が参加した。NIE実践指定校5校が新聞の活用法を発表した。教諭の実践報告は示唆に富み、児童生徒の実演発表は元気があふれた。参加者の幅も広がり、今後の展開が楽しみな発表会になつた。

社会と学校新聞で結ぶ

るようになり、多様性の理解が進んだ」と強調した。

県立武庫荘総合高(尼崎市)の山村康彦教諭は、読ませた

(持続可能な開発目標)に関する壁新聞作りに取り組んだ

い記事を配つたり、SDGsの山口通じて神戸がより好くになったなどと話した。

会場にはほかの生徒が作った新聞も掲示され、関心を集めていると報告。社会問題への意見を新聞に投書する事例も発表し、「社会の一員の自分が高まった」とした。

講評で、県教委高校教育課の北上景章指導主事は「小中高とそれぞれ発達段階に応じた効果的な取り組みで、学校の狙いが児童生徒にもよく伝わっているようだ」と評価した。

■児童生徒が実演
18年度に引き続いで、児童生徒による実演発表があつた。養父市立建屋小の児童9人は坂本和宏教諭、外国语指導助手(A-TT)キヤティ・ムツワさん、同小PTAとともに、ゲームを通じて英語を学ぶ特別授業「イングリッシュ・マラソン」を紹介。会場の参加者も巻き込んで、英字新聞のジグソーパズルなどを二つのゲームを実演した。

県立神戸鈴蘭台高(神戸市北区)2年の岸崎泰成さん、勝占美穂さんは鶴岡愛教諭とともに登壇した。神戸の会社社長らにインタビューした内

容を各自が新聞にまとめる取り組みを発表。製作中の新規を紹介しながら、「インタビューを通じて神戸がより好きになった」などと話した。神戸市教委学校教育課の後藤英樹指導主事が講評。各校の取り組みを評価し、神戸鈴蘭台高について「今後も公正な立場か、根拠は確かを確認しながら新聞製作を進めてほしい」と呼び掛けた。

■広げるNIE

神戸鈴蘭台高生のインタビューや受けた会社社長やPTA

Aも出席。推進協議会の新聞・通信各社はほぼ全社が出席し発表者に質問するなど、今後のNIEの広がりが楽しみな一日となつた。

参加者のアンケートの回答は好意的なものが多くたが、「家庭に毎朝新聞が届く風景がもはや当たり前ではないう事実は重い」など購読率の低下を危惧する声や、「新聞・通信各社との交流の場、意見交換の場を設けてほしい」との要望もあつた。参加者の声を受け止め、改善を加えていきたい。

務局長)(兵庫県NIE推進協議会事

2019年度のNIE実践指定校への記者派遣事業が終了した。前号のNIE二

ユースに続いて、昨年11月27日～2月10日に行つた計8校の授業を紹介する。記者と児童生徒の距離が近くなる授業ができていたらうれしい。3月に予定していた立津名高校は新型コロナウイルス対策による休校のため20年度に延期する。

NIE実践指定校 8校に記者派遣

【神戸市立神港橋高校】

話した。

毎日新聞神戸支局の春増翔太記者が「事件は現場で起きる」と題して、3年生約30人に授業を行った。

昨年春まで東京本社で事件担当だった春増記者は、新宿・歌舞伎町で飛び降り自殺した、若い女性の背景を探った自身の記事を紹介。「社会の隙間にうつかり入り込み、事件が起きてしまうと知つてほしい」と



れ、「社内で議論になり、私も迷う。読者に被害者への想像力を働かせてもらうため名前が必要だとも思う」と話した。(19年11月27日)

▼生徒の感想 曲淵大音

さん「1本の記事を作るのに多くの時間と手間をかけていることに驚いた」芳原楓香さん「新聞社内でも出すべきでないという意見があつたのに実名報道されたのは納得できない。慎重に考えるべきだつたと思う」

【養父市立建屋小学校】
神戸新聞教育ICT部の武藤邦生記者が、5年生8人に新聞作りアプリ「ことまど」を使った授業を行つた。



「ことまど」は神戸新聞社が開発したクラウド型アプリ。紙面の割り付けが自動化されており、本格的な新聞を簡単に作ることができる。

5年生は2学期、米作り

【神戸市立向洋小学校】
読売新聞大阪本社広報宣伝部の伊東広路記者が5年生約120人に授業を行つたことを、阪神・淡路の読み方や災害時の新聞の役割を解説した。

同校では休み時間や家庭でも新聞を読む習慣をつけ

てもらおうと、週1回、4

年生以上の児童全員に読売KODOMO新聞を配布し

ている。



授業では、見出しの付け方や、写真を効果的に使うなど記事を分かりやすくする方法を説明。伊東記者は「新聞を作成する際の工夫や苦労が分かった。スポーツ面やテレビ面以外も読もうと思った」、青田愛未さん「記者は読者に分かりやすく第一に考え、記事を書いていることを知った」と話も伝えた。(1月9日)

▼児童の感想 為近大貴

君「新聞を作成する際の工夫や苦労が分かった。スポーツ

面やテレビ面以外も読もうと思った」、青田愛未さん

「記者は読者に分かりやすく第一に考え、記事を書いていることを知った」と思つた」、青田愛未さん

「記者は読者に分かりやすく第一に考え、記事を書いていることを知つた」と思つた

1995年1月17日の阪神

大震災で一緒に入社

した。ありがとうございました。同推進協議会事務局ではNIEについての説明など、講師を派遣しています。事務局 0078-362-705

4までお問い合わせください。

◆20年度NIE実践指定校応募のお

礼 兵庫県NIE推進協議会が202

0年度のNIE実践指定校(全20校のうち新規校10校)を募集しましたと

る、多くの学校から応募があり、2月14日をもって締め切らせていただきま

した。ありがとうございました。同推進協議会事務局ではNIEについての説明など、講師を派遣しています。事務局 0078-362-705

◆新聞記者の話が何よりの教材に何よりの教材に何よりも勝る教材はない。授業の題名は、「新聞を見よう」。どうしても文字が並ぶ新聞は、難しそうな印象をもちやすいが、気負うことなく、楽しんでページをめくるところから授業が始まつた。2時間の授業は、新聞の記事作りから見出しなどを編集の工夫、災害時の情報機関の在り方まで、盛りだくさんの内容であつた。実際の取材メモや呼び出し用の携帯電話なども見せてもらい、興味をもつて話を聞くことができた。

本校ではこども新聞が毎週1人1部届く。今回、

その製作の裏側を知り、

新聞の見方を学んだ。今年

1月には、社会科の学習で、実際に新聞社を見学した。

子どもたちが、「本物」か

ら多くの情報を吸収し、

それぞれの学びに生かし

ていくことを期待してい

て、新聞記者の生のお話を伺える機会をいただいた。

子どもたちにとって、「本物」に勝る教材はない。

授業の題名は、「新聞を見よう」。どうしても

文字が並ぶ新聞は、難しそうな印象をもちやすいが、

気負うことなく、楽しんで

ページをめくるところから

授業が始まつた。2時間の

授業は、新聞の記事作りか

ら、見出しなどを編集の工夫、

災害時の情報機関の在り方

まで、盛りだくさんの内容

であつた。実際の取材メモ

や呼び出し用の携帯電話な

ども見せてもらい、興味を

もつて話を聞くことができた。

本校ではこども新聞が

毎週1人1部届く。今回、

その製作の裏側を知り、

新聞の見方を学んだ。今年

1月には、社会科の学習で、

実際に新聞社を見学した。

子どもたちが、「本物」か

ら多くの情報を吸収し、

それぞれの学びに生かし

ていくことを期待してい

【神戸市立六甲アイランド小学校】
産経新聞神戸総局の篠田丈晴総局長が「新聞の読み切り抜いてスクランプする方と舞台裏」をテーマに、5年生約60人に授業を行つた。



記事から読みばいい」と呼び掛けた。

関心のある分野の記事を切り抜いてスクランプする

習慣をつけると学習にも役立つと指摘。「なぜこの記

事を切り抜いたかな、理由や感想を書き添えておく

と記憶にも残りやすい」などと勧めた。(1月21日)

▼児童の感想 山根勇雅

君「新聞は写真やグラフを使つていて読みやすい。新聞に興味を持った」、谷口苺花さん「新聞製作に大変手間がかかることが分かっただけで、今日の新聞は新型肺炎の記事が気になつた」

かつからず、その人がかわって新聞を作っているのを知つた

巴拉めぐり、目に留まつた

新聞を読み慣れていない

子どもが増えていることを踏まえ、「全部読まなくて

OK。ざつと見れば、その

日はどんなニュースがある

のかつかめる。まずはパラ

ラムで、とにかく読む

ことが大事だよ」と教わ

った。今日は新聞が読め

るよ」と喜んでいた。

西山 薫

神戸市立向洋小教諭

【姫路市立豊富小学校】

共同通信神戸支局の小島鷹之記者が「新聞を使つた調べ学習」と題し、5年生88人に授業を行つた。

数人の班ごとに、「なども新聞」各紙から気になる記事を選ぶ。分からぬことや記事の背景をネットや本、アンケートで調査。模造紙に記事を貼り付け、調べた内容を書

き込む。「『じょうがい者』『碍』という字を知つていいか」と問うた。「書くか、障碍者と書くか」の記事を選んでいた。児童50人に「障い分けることが大事」とまとめた。

【県立神戸聴覚特別支援学校】

新紙幣の記事を調べた班もまとめた。(1月23日)

▼児童の感想 村前美月さん「みんなで記事を選んで調べるのが楽しかった」、福原奈穂さん「班ごとに興味のある記事が違つて面白かった」



【県立神戸鈴蘭台高校】

神戸新聞NIE推進部の三好正文アドバイザーが、インターネット上で、アンケートで調査。模造紙に記事を貼り付け、調べた内容を書

ユーした。授業では、それぞれA4判の用紙に記事を書いていった。三好アドバ

イザーは「話の中で感銘したことを見出しつつ」「一番のニュースをトップにしよう」などと呼び掛けた。2月14日、同校内で発表会を開いた。(1月24日)

▼生徒の感想 井上拓海さん「インタビューでいろんな話を聞けたけど、簡潔にまとめるのは難しい」、綾田好果さん「いま欲しい人材の話が興味深かつた。社長の家族や趣味の話も書いてみたい」

授業では、2年生の総合的な学習の時間に「私たちの街・神戸について記事を書いてみよう」という講座を設け、年間を通して活動。生徒たちは、神戸や姫路の

美記者が「新聞の作り方と楽しみ方」をテーマに、小学校3~5年生15人に授業を行つた。

【淡路市立志筑小学校】

新紙幣の記事を調べた班もまとめた。(1月28日)

▼児童の感想 松村沙紀さん(4年)「頑張つて作った新聞を見せられて良かった。記事のまとめ方が参考になつた」、高木結衣さん(4年)「子ども新聞はいろいろなことが書かれていて勉強になると思った」



【淡路市立志筑小学校】

読売新聞洲本支局の加藤律郎記者が6年生約70人に授業を行い、記事を書く際のポイントや見出しの付け方を説明した。

児童たちは近く淡路人形浄瑠璃を演じる予定で、その体験を新聞にまとめるのに役立つと聞いた。加藤記者は「5W1Hを意識して」などと呼び掛け、児童たちは一面のコスモス畑

の写真を見て記事を書いたり、淡路島内で国内最高齢のコアラが死んだ記事に見道員」を披露。阪神・淡路大震災や西日本豪雨など災害報道への思いも語った。(2月10日)

▼児童の感想 古市詩織さん「災害の悲惨さを伝えるために何度も通つて人から話を聞いていると知つた」、明石晏奈さん「記者の人たちが懸命に取材することで私たちにニュースが伝わることを知つた」

授業のなかで、「自分が編集長ならどの記事をトップにする?」と問い合わせ、用意した新聞を各自5分間読んでもらつた。読み慣れていないせいか、ページをめくることに苦労する児童もちろんいた。

ちなみにこの日の産経新聞朝刊1面トップは、安倍晋三首相の施政方針演説。一方、子どもたちが選んだのは「新型肺炎春節移動で拡大恐れ」「子どもはゲーム1日60分」など…。

NIEガイド本 小学校編を発行

のガイドブック「新聞で授業が変わる」(小学校編)を発行した=写真。

NIEの実践経験豊富な全国の小学校教師から寄せられ、25の適用例を紹介。兵庫から明石市立二見西小学校の

日本新聞協会は、新聞を活用した授業例を紹介する先生向け

日本新聞協会は、新聞を活用した授業例を紹介する先生向け



若生佳久主幹教諭(日本新聞協会NIEアドバイザー)が「4コマ漫画で『起承転結』を学ぼう」「新聞に載っている大きな数を探そう」の二つを執筆した。

A4判、56頁。330円。日本新聞協会出版広報担当(☎03-3599-13469)

面実施される学習指導要領に沿って全教科・領域を網羅している。

パラパラめぐり手探りでパラパラめぐつた程度なのに、子どもたちの着眼点とニーズセンスの良さに驚いた。神戸市立六甲アイランド小学校の5年生2クラスでおこなつた授業である。当日付の朝刊を使って「新聞の読み方と舞台裏」をテーマに話した。

新聞に好奇心を産経新聞神戸総局長篠田丈晴が「新聞の読み方を書くのを頑張った」「絵をきれいに描いた」などと、工夫した点を積極的に発言していた。(1月28日)

県立津名高校(淡路市)

公開授業特集

地域課題解決 生徒が提案

28班、多彩なアイデア披露

県立津名高校(淡路市)の生徒たちが地域課題を探り、解決策を考える授業「リボーン・プロジェクト」の成果発表会が昨年11月27日同校であった。「総合的な学習」として2017年度から続いている取り組みで、在校生のほか、行政や教育関係者、市民団体のメンバーらが高校生の自由な発想を生かした提案が理解し合い、誰もが助けを求め合える社会になればうれしい」と話していた。



ポスター発表形式でアイデアを発表する生徒ら=淡路市志筑

案に耳を傾けた。19年度のNIE実践指定校による公開授業を兼ね、兵庫県NIE推進協議会が共催した。同プロジェクトでは19年度は、文系クラスの2年生約100人が新聞を使った地域の課題探しや関係機関への調査に取り組んできた。

生徒は28班に分かれ、福祉や防災、観光などをテーマに、ポスター発表形式で発表。廃校で脱出ゲームやお化け屋敷を▽祭りを動画サイトで発信▽災害に備えヘリポートの整備を▽イスラム教徒をハラル料理でアを披露した。今回は理系の生徒約10人も発表に加わった。

障害者のスポーツイベント「淡路ハーリンピック」の開催を提案した班のリーダー宮田紗羽さん(17)は、「健常者と障害者が理解し合い、誰もが助けを求め合える社会になればうれしい」と話していた。

県立津名高校(淡路市)の生徒たちが地域課題を探り、解決策を考える授業「リボーン・プロジェクト」の成果発表会が昨年11月27日同校であった。「総合的な学習」として2017年度から続いている取り組みで、在校生のほか、行政や教育関係者、市民団体のメンバーらが高校生の自由な発想を生かした提案が理解し合い、誰もが助けを求め合える社会になればうれしい」と話していた。

▼ほかの生徒の感想 小山莉穂さん「野良犬や野良猫の殺処分の記事を読んで解決策を考えた。考えを伝えることの大切さを学んだ」、小松優太さん「新聞から地域防災の課題や取り組みを調べた。専門用語をわかりやすく伝えることに苦心した」、向田沙奈依さん「新聞から課題を探し、自分の視野が広がり、社会の出来事に対する見方が豊かになったと思う」

▼先生の感想 県立淡路高校・高倍瀬子教諭 婦教諭 地域課題に関する新聞記事をリストアップする取り組みは、子どもたちが地域愛着を持つための取り組みとしてとても参考になった。

11月には県立津名高校の発表会に伺いました。地域の課題を基にNIE活動で学んだことを、生徒たちはポスター発表の中で発揮していました。

昨年7月に行われた「NIEセミナー」にも参加しました。新聞をどう活用するかなど、活動の成果を左右する先生の授業力は、とても重要です。ICT技術が発達しても、多様な情報限られた紙面で提供する新聞は最も身近な社会に触れるツールです。これからもNIE活動を応援していくま

授業を終えて

■大石昇平■

県立津名高等学校教諭

地域の問題「自分ごと」に

2年生文系生徒100人が「総合的な学習の時間」で取り組んできた「REBORN・PROJECT」の成果発表会をご覧いただいた。

生徒が地域課題を探し、解決策を考え、地域に発信していく取り組みだ。地域課題を探す中で、生徒が2人一組のペアを組んで、4ヶ月分の新聞から地域課題に関する記事をリストアップするという取り組みを行った。新聞を1面から終面までめくったことのない生徒もいる中で、新聞から情報収集し、新聞を通して地域と全国の現状に触れることができたと感じている。

そして、生徒たちは、自分たちの解決策をポスターにまとめ、地域の方々に発表を聞いていた。緊張しながらも一生懸命発表する姿からは、誰かに伝えたいという姿勢が強く表れていた。その後の研究協議では、考えたアイデアを「誰が」「どのように」実現していくのかが次の課題になるとのご指摘をいたしました。今後も、自分たちの地域や社会の問題に「自分ごと」として関わっていけるような生徒の育成が必要だと感じる。そのためにも、新聞を通じて社会・地域を見つめ、自分の世界を広げていく指導を続けていきたい。



生徒の誰もが先生に

西上三鶴・兵庫県教育長

平成から令和に時代も変わり、これまでの日本は、国際化・情報化

に伴い、多様な価値観をもつ人々と出会う社会

公開授業特集

加古川市立川西小学校

消費増税テーマ、熱く議論

授業を終えて

■ 藤池陽太郎 ■

加古川市立川西小学校教諭

読み比べ 多様な見方知る

6年生27人が、新聞の記事の読み比べにより、消費増税について自分の考えをまとめていく授業をご覧いただいた。

授業をこなした。19年10月、税率が8%から10%に引き上げられた消費税は、児童にとって自分の生活との関わりが大きいため関心も高い。授業で取り上げることで、それに関わる国会・内閣・税金などのそれぞれの働きを具体的に理解させることができると考えた。

増税に関する三つの新聞記事を読み比べ、これまでの学習をもとに、賛成か反対かに分かれて討論を行った。読み比べにより、少子高齢化や社会保障、軽減税率など多様な見方から考えることができた。また、授業前は、「物価が高くなるから反対」という意見も多かったが、授業後は、「これから社会のためには必要だから賛成」「一部の人しか得しないから反対」など、多様な見方をもって自分の考えをまとめることができた。

次は授業で深めた学びをもとに、消費増税についての自分の考えを新聞投書欄に投稿する。新聞を通して社会事象への関心を高め、投稿によって社会に参画できる児童の育成を目指していきたい。



消費増税に賛成か反対かー。討論する児童たち＝加古川市米田町平津

高木山田さん（1）は、一時期、
対の立場は変わらないが、賛成
する人の意見にも理解できると
ころがあった」、藤池教諭は「み
んな6年後には選挙権を得る。
自分の考えを投票行動に生かし
てほしい」と話していた。

成り立つに期待したい。
姫路市立豊富小学校・畠田千
香教諭 三つの記事を読み比べ
ながら自分の意見を考え、話し
合いが深まっていた。子どもたち
の身近に新聞が存在している
ことを感じた。

来の負担を減らすために必要」「国会で慎重に話し合った結果」と主張。一方、反対派は「収入の少ない人の負担が増える」「物を買わなくなり、経済が悪化する」と指摘していた。

▼先生の感想
加古川市立上荘小学校・中田光彦校長 新聞記事で得た知識や級友との討論を通して、自身の考えを深め、より広い視点で考えることができた。さらなる

がつてほしいという願いが、この二つの祈りを活用

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing glasses, a white shirt, and a dark suit jacket.

2020年度から順次始まる学習指

長田淳・神戸市教育長

「世界の中の私」学ぶ

学校1校が指定を受け活動しています。神戸市で過去最多です。

実践校では、記者派遣活動、新聞の紙の無償配布などを通し、児童生徒の世の中を見る目に変化が表されました。自分は、他者との関係性の中で存在する。つまり、「自分のありようは世間にと無関係ではない」という相互承認の力が向上しており、NIE活動は、よりよい社会の担い手の育成につながっていくものだと感じています。

